

## 知事と区市町村長との意見交換（小平市）

令和1年9月24日（火）

13時00分～13時20分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 御無沙汰しております。小林市長にはいつもお世話になっておりまして、ありがとうございます。

今日は先だっては防災をテーマにお話伺いましたけれども、今回長期ビジョン、長期戦略をつくるというその過程でございまして、これからの目の前も含めながらもその先を見て、何が必要なのか、御意見をお一人お一人伺っているところでございます。今日はざっくりばらんな御意見、御要望を伺わせていただきたいと思いますので、よろしく願います。

○行政部長 では小林市長、よろしく願います。

○小平市長 それでは冒頭、まずこのような機会を作っていただきまして、本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

今、映っている所は最初に話をいたします、開かずの踏切という所なんですけれども、都心部への一極集中が進む中で、JR中央線の複々線化という話もございまして、災害時等を考えるとJR中央線だけではなく、私鉄路線の強化や都市機能の郊外への分散が必要であるというふうに考えております。

先の千葉の台風もそうでしたけれども、都市に余り集中してしまうと防災上非常に危険性をはらむということで、できるだけ分散化が私は必要だというふうに考えております。

そういう点から、危機管理の観点からも平時から交通体系の整備、それから分散化、緊急輸送ルート、それから活動拠点等の確保に努めることが重要であると考えております。

次に都への提言、望むこととさせていただきます。市といたしましては、交通体系の整備に向け、西武線の踏切の安全対策、渋滞解消に向けた鉄道立体化を推進したいと考えております。そのためにもということで、地域の皆さんにアンケート調査等をして機運醸成を図っているところでございます。

そして、小平市は西武線が主力になっておりますが、この西武線の鉄道立体化は都の踏切対策基本方針の中で田無駅から花小金井駅付近までが、現在、鉄道立体化の検討対象区間に位置付けられております。

かねてより要望いたしておりますが、連続立体交差事業の一層の推進、当該区間の着実な事業化をぜひお願いをしたいというふうに思っております。

あわせて、次期の方針策定の際には、現在選定されていない区間についても鉄道立体化の検討対象区間として追加認定をしていただきますよう、お願い申し上げます。

そして、地域の活性化の取り組みといたしまして、西武拝島線の小川駅では、小平市で初めてとなります、駅前市街地再開発事業も進められており、市も全面的に支援をしてい

るところであります。繰り返しになりますけれども、分散型のまちづくりには、働きやすく生活しやすい環境づくりも欠かせない側面があるというふうに考えております。

続きまして女性活躍でございます。女性の活躍の推進やワークライフバランスの観点からも、都心まで通わなくても住んでいる地域の近くで働けるような環境づくりが望まれております。サテライトオフィス設置に取り組む、都心の企業や団体向けの補助、支援の拡充も有効と考えております。分散型社会の実現は通勤環境の快適さ、企業の生産性の向上にも繋がるものと考えます。

市ではコミュニティバスの運行や、コミュニティタクシーの実証実験運行等、地域との協働の取組により、地域内交通の充実も図っております。都心部に比べて脆弱な郊外の交通体系を補う地域内交通の充実に対する支援についても、ぜひお願いをしたいと思っております。

小平市には梅 70 という、青梅まで走っているバスがあるんですけども、ここの負担をぜひ軽減したいということと、今どこでももう走っておりますけども、このコミュニティの交通に対しての支援も、ぜひお願いができればというふうに思っております。

次に都市農地や景観の保全と継承についてでございますが、小平市は 20 平方キロメートルありますけれども、この約 1 割が農地なんです。全体の 1 割が農地であるという特色がございます。

小平市は「都会から一番近い、プチ田舎」というのをキャッチフレーズにしておりますので、もう商標登録しましたので、小平市以外は早い者勝ちでございますので、もうプチ田舎を使える所はありません。都心へのアクセスに恵まれながら、現在も農地や用水、鉄道等、豊かな自然環境が残っております。都市農地は災害時には貴重なオープンスペースとして、避難地や避難経路の確保、延焼の遮断等の役割も果たしております。

次に都への提言、望むことでございます。市では先ほど申し上げましたように農地がいっぱいありますので、学校給食での地場産農産物の利用促進をしており、地場野菜利用率は概ね 3 割でございます。3 割近くで多摩地区の中でもかなり高い位置を占めております。

次に農産物のブランド化により、地場産農産物への需要喚起と地産地消を推進するということでございます。小平市の梨の生産量は、意外と知られていないんですけども、都内で 3 番目なんです。根域制限栽培という、画像に載っているやつなんですけど、普通は一定の間隔を開けて梨の木を植えるんですけども、これは密集をさせながら植える技術ですけども、この根域制限栽培という収穫量が倍増する新しい栽培技術の導入等、多様な農業振興施策に取り組み、新規に農業に従事する方は過去 5 年間で 27 人に及んでおります。

それから令和 4 年ですが、大部分の生産緑地が買い取り申出が可能になるということも、喫緊の課題でございます。当市も都と一丸となり、豊かな自然環境、水と緑の安らぎの溢れる景観を、東京都の財産として後世に引き継いでいきたいと考えております。その生産緑地の買い取り補助制度の拡充の他、農地の貸借による保全の促進等、新たな制度にも対応できる仕組みづくりをしてまいりたいというふうに思っております。

次に、これ用水路ですけども、これ玉川上水から取水をして、市内に 52 キロあるんで

す、用水路が。多分こんな小さなまちに 52 キロもこのような用水路がある。これは元々は原水は玉川上水から引っ張ってるものでありますが、東京都がこの度公表いたしました、「未来の東京への論点、今なすべき未来への投資とは」におきまして、目指す東京のイメージ例として、「水と緑を一層豊かにし、ゆとりと潤いのある東京」を掲げ、玉川上水の清流復活も一例に取り上げられております。

玉川上水は先日の台風で倒木の被害が出ており、高木の伐採やのり面の崩落防止にもぜひ力を入れていただきたいというふうに思っております。都内には玉川上水から分水した用水路も、さっき申し上げましたが 52 キロございます。市は用水路の保全工事、親水エリアや緑道の整備等にも力を注いでおります。こうした用水路の保全や継承に向けて、財政面からも一層の支援をお願いして、私の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

**○知事** ありがとうございました。いくつかまちづくりや、農業に至るまで、様々な観点からお話がありました。

分散型のまちづくりという点では働き方改革も含めて、サテライトオフィスを整備される市や企業等に補助事業を実施しております。多摩地域で働けるこの環境づくりの重要性を認識しておりますので、ですから小平の地域の実情に合わせて、例えばサテライトオフィスをおつくりいただくことによって、子育てをしながら働けるとか、時差通勤で混んでる時間をサテライトオフィスで働いた後、大手町かどこかに行くとか、そういうふうな働き方に、柔軟性を持たせるという意味では、小平もその適地になるのではないかなというふうに思います。

それから足回りの話ですけれども、今も都営バス路線のお話がありました。路線バスというのは今高齢者の、例えば自動車免許証の返納等のムーブメントもあり、先日の事故もありで、東京都としてこの踏み間違いを防ぐという、その器具について補助を出しているところでもありますけれども、やはり路線バスについては住民の暮らしを支えるまさしく足でございますので、沿線の皆さんと連携しながらの運行の継続に努めていきたいと考えております。

まず広域的、専門的な立場からどのような形が一番望ましく、継続性があるって効率的なのか等も含めて、今日の話もしっかり受け止めていきたいと思っております。

農業は 3 位ですか、梨が 3 位。で、農業戸数 812 戸です。従事者数が 526 という数字で、さっき 20 何人増えたっておっしゃいましたよね。

**○小平市長** 27 人。新たに就労された方。

**○知事** ねえ。

**○小平市長** 農業以外から就労された方。

**○知事** やはり農業というのは何よりもヒートアイランド現象の防止とか、緑の癒しであるとか、それから農業そのものですよね。それも稼げる農業で進めるというのが、何よりも重要なことだと思います。都市農地の保全ということについては、予算上の対応を含めまして、しっかりと支援をしてまいりたいと考えております。

小平は、何度か伺わせいただいておりますけれど、プチ田舎というか、本当にとってもほっこりする所で、行くとまさしく癒しになるのかなと思いつつ、また暮らす方々にとりましても、足の確保等も重要なことですので、今日いただいたのはこれからの市の、また多摩地域の発展にも繋がるお話だと思って受け止めさせていただきます。副知事からは。

**○副知事** 冒頭、花小金井駅の近くの踏切の写真をを見せていただきましたけども。鉄道の立体化につきましては、踏切の除却を含めまして、まちづくりの極めて大きな課題であるというふうに認識しております。

鉄道立体化の西武新宿線で検討対象として選定されてる区間でございます、お話にもありました、田無駅から花小金井駅付近につきましては、市のまちづくりの取り組みを支援しつつ、着実に都としても前に進めていきたいというふうに考えております。

また、選定されてない区間につきましても、道路整備計画の具体化等も踏まえる必要もございまして、都は市と共に適切に対応してまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いたします。

**○行政部長** 市長、いかがでしょうか。

**○小平市長** これは絶対言っておかないといけないと思ったのは、私は以前、長いこと議員やってましたけども、都市の成長管理論、成長管理っていうのをずっと私テーマとしていまして、知事はどのようにお考えなのか分かんないけど、今1,300万人ぐらいですか。

やはり、増えればいいってものではなくて、やはりそれは人間の体と同じで、動脈、静脈がありますから、やはり適正規模というのですか。やはり人間が快適に暮らすにはやはり面積とか、いろいろその地理的な特徴があるとは思いますが、やはり東京都が目指すべき人口ですね。そういったものがないと、ただ増えればいいという、ややこしい今、子供の奪い合いみたいなのがあるところがあって、全体的に減ってるのに、パイは小さくなっているのに子供の奪い合っているみたいなのがあるところがあって、また逆に我々も人口が減ると市長の能力がないのかなんて、まだ知事は増えているからいいけど、減っている所は大変です。

やはりトップの、今ね、非常にそういう意味では歪んでるんですね。首長の評価基準が政策的な評価じゃなくて、人口とかあるいは高齢化みたいなのところで評価されてて、非常に私はこれはね、適正な評価ではないというふうに思うんですよ。

だからそういう意味では、私は東京都って全体の中でいうと23区を示しているわけですが、今非常に都心に人が増えているわけですが、一方で、この後奥多摩の町長が来られますけど、あっちの方もどんどん減っているわけですね。だからそれでいいのかということが、やはりもっと近郊、あるいは東京都は必要なのではないかと。

だからここで集中してしまうと、千葉の台風ではないけど、もし万が一あれが東京23区からずっと、東京都というのは帯状ですから。あれが真ん中にそのままいったら、東京都は大壊滅ですよ。すると都市機能が麻痺しますから、そうしたら国の機能も麻痺しますから。

私はそこは一定程度、どういうふうにしていくのか分かりませんが、知事としてはぜひ、その私の都市の成長管理論からいって、ぜひお考えいただければというふうに思いますが、いかがでございませうでしょうか。

○知事 ありがとうございます。ちなみに小平は19万3,596名で、昨年度より若干増えておられる。ということは、住みやすいまちだと。市長が立派だと。

○小平市長 そのようなことは言えない。

○知事 ただ、その人口規模というのは、やはり力でもあり、また様々な、今日本が抱えている課題はやはり人口問題だというふうに思います。

それから子供の奪い合いではなくて、むしろ今は子供さんを産みたい人が産めるような状況にしていかなければ、それは国力そのものにも繋がってくる問題だと。誰も国力のために子供を産む人はいませんが、でも全体からのマネジメントとして考えれば重要な話で、小平のように新鮮な空気と緑に恵まれて育つというのはよろしいんじゃないかなと思います。

それから話は別ですけども、先ほどの玉川上水の話も、先だって外堀の近辺の大学の皆さん、中央大学とか法政とか、東京理科大でしたか。皆さんお越しになりまして、やはりこの玉川上水からずっとその水を流せないものかという陳情を受けたばかりです。

それはまちづくりの中にはそこに住む人から水の確保、地産地水がベースにあって進めるべきものだと思います。これは、ずっともう暗渠になったところもあり、そう簡単な話ではないんですけども、まさしく長期のビジョンとして、東京どうあるべきかの中で考えていくテーマだというふうに思っております。まずは52キロで、今回ので倒木もあったんですか。

○小平市長 玉川上水、画像は用水路。

○知事 これは違うのですか。

○小平市長 玉川上水ではありません。

○知事 そうですか。いずれにしましても、人とそれから街とうまくこう連携しながら、その中で人々が幸せに暮らせる度合っているのこそが、一番求めていくものではないかなと思っております。

○小平市長 玉川上水は御案内のとおり、上流域と中流域と下流域というのがあるんですよ。私の所は中流域の最上流。立川と小平市の境の所に、そこまでは原水。多摩川の原水が流れ、そこから東村山浄水場に流れて、私の所の中流域は全部、下水道の処理水なんです。その処理水をもう少し増やしていただきたいというのと、あとは上流、中流、下流域というのがありますが、下流域はほとんど暗渠なんですよ。

ですからね、これは地元の区市町村との話し合いもありますけども、ぜひあれを開渠にさせていただいて、日本橋の復活ではないですけど、やはり玉川上水を全て外堀まで、全部開渠にさせていただくということ、壮大な計画ですけども。

ぜひ、単なる外堀の中に水洗を流すっていう、そういう小手先だけではなくて、もうちょっと玉川上水を全体に考えてもらって、全部開渠にするというふうなことを、壮大な計画を出してもらえればとても次世代の人達にとっては楽しい夢になるんだろうというふうに思います。

○行政部長 そろそろお時間になりますので、最後に知事から一言だけお願いいたします。

○知事 ありがとうございました。これからもいろいろな面でまちが元気であり続けるために、また連携していきたいと思っております。今日はありがとうございました。